

ラグビー部創部50年を祝って

東京都立千歳高等学校校長 本間研一

ラグビー部創部50年本当におめでとうございます。最近の社会変動の激しさは10年一昔といわれるより、もっとサイクルが早くなっているような気がします。残念ながら現在ラグビーは同好会で、部員は1名しかおりませんが、新年度からは必ず活発になると信じています。それは体育に4月からお迎えする田中裕之先生（前任校港工業定時制）が、対抗戦グループで筑波大学が3位になったときのレギュラーでセンターをやっていた方だからです。長年の伝統あるラグビー部が衰退していくことに私も危機感を感じ、ぜひラグビーを指導できる教員をと教育委員会にお願いをして、田中先生においで願えることになりました。学校として条件整備にはできる限り努力するつもりですが、ぜひOB会の皆様方にも物心両面にわたるご支援をよろしくお願い致します。

ラグビーの「一人はみんなのために・みんなは一人のために」という言葉は、教育の基本です。社会の中で成長していく子供達にはみんなの支援が不可欠ですが、同時に一人の力が、社会を動かすことになるのです。現代は多様性の時代です。ともすれば目標を見失いがちな子供達に、ラグビーを通してみんなで力を合わせて一つのことに向かう素晴らしさを味わってほしいと思っています。そしてその経験が人間としての在り方生き方をつかむことにつながり、人生の大きなバックボーンともなっていくと思います。

私は高校時代からずっとバドミントンをやってきました。全国教職員大会に20年連続出場して、表彰していただきました。それだけ熱中することになった

きっかけは、初出場の秋田大会で順調にベスト8まで勝ち進み、大したことはないと甘く考えたところで準々決勝で対戦した熊本県の選手のあまりの強さに圧倒されたことからです。どこから球が出てくるのか全くわからずあっというまに試合が終わっていました。なんとかして彼に勝ちたいと練習を積んでいっても簡単に負けてしまうのです。勝ち上がると必ず彼と対戦しなければならず、何年も何年も悔しい思いをしました。対戦して15年目の苫小牧の大会でついに彼を破ることができ、準決勝に進出したが、彼に勝つことに疲れて決勝へは出られませんでした。が、満足でした。彼とは初対戦以来コートを離れれば友人として仲よくしてきました。私にとって大きな目標と友情を与えてくれたのがバドミントンでした。

スポーツは、目標をつくり、友情を育みます。人生いかに生きるべきかを考えた時、スポーツで培ったものが生きてきます。ラグビー部OB会の皆様もきっと素晴らしい友人を持ち、目標をしっかり定めた人生を送っていらっしゃるものと存じます。現役の高校生達にもこの楽しみをぜひ教えてやってほしいと思っています。どんな種類のスポーツでも、目標に向かって努力することは同じです。その中から友情が育ち、耐える心も生まれます。ぜひ、クラブ活動の活発な学校にしたいと思っています。

ラグビー部の今後のますますの発展を願うと同時にOB会の一層のご発展を心よりお祈りし、ラグビー部創部50周年のお祝いの言葉とさせていただきます。